馬耳東風

獣医療を巡る裁判の記事を目にする機会が増えている．人の医療においてはさらに目立つが，これは医療分野に限らず全ての分野で裁判に訴える事例が増えていることの一側面と思われる．アメリカ的な価値観が最良と受け止めている？　日本社会が避けて通れない現実であろうか．事故の処理に不満があるとか，明らかに相手側の過失による事故にもかかわらず正当な補償が得られないとか，裁判に訴えるしか手段がないものは仕方ない．しかし，金が取れそうだから先に提訴した方が勝ちとばかりに，何事でも提訴しようというような社会は決してレベルの高い文化国家とは言えない．

一方，新聞等の報道で見る限り，常識的に考えるとこんな事でも勝訴するのかと首をかしげたくなる判決事例がある．これならば自分も提訴し，少しでも賠償金を取る方が得だと考えるのも無理はない．例えば，車がカーブを曲がりきれずに転落したのはガードレールを設置しなかった市が悪い，河の護岸用の樹木で日陰になり，落葉によって居住権が侵害されたのは樹木を植えた県(国)が悪い，あるいはスピード違反で逃げた車が事故を起こしたのは追跡した警察が悪いとか言う事例である．おそらく拾えばまだ沢山出てくるであろう．このような判決に違和感を感じるのは筆者のみであろうか．カーブで曲がりきれなかったのは自分の運転能力が劣るからであろう．スピード違反の検挙の際，深追いは恐怖心を与えるからいけないという判決は「違反しても良いから早く逃げなさい」と言っていることと同じで，これが却って大事故を誘発しているように思えて仕方ない．

ところで，獣医療を巡る裁判について違和感を感じるのは過失と能力不足を混同しているのではないかと思われることである．もちろん当事者ではないから，どのような審議を経て結審したかはわからないから，あくまで感覚的に捉えた印象である．これは医療を巡る裁判でも同様であるが，投薬ミスとか手術で異常と正常な臓器を取り違えたというような，明らかなミスは診療者側に責任がある．しかし，その時点で自分の考えが及ぶ範囲で最良と判断して行った診療について，過失があったと判断されても当の獣医師は納得できないであろう．仮にさらに高度獣医療をもって診療すれば救命できたとすれば，それは自分自身の能力が及ばなかっただけで過失には当たらないと思われる．能力不足と判断された獣医師は屈辱を感じるであろうが，事実として謙虚に受け止めなくてはならないし，このような事態にならないためにも日々の診療力の向上に向けた努力が不可欠であろう．読者はどのように捉えるであろうか．　(青)